

## 《発表内容》

### 1. 業界を取り巻く現状と課題

山形県は鶏卵の生産が盛んではなく、東北では他県から卵を仕入れている唯一の消費県である。当県の人口が約105万人に対して、当県の鶏卵の生産量は1日約40万個と少ない。

養鶏会社の数としては、平成18年の約3,600戸から令和3年の約1,880戸と半分に減少しているが、成鶏めす飼養羽数としてはほぼ変わっていない。これらの結果から、県内では養鶏会社の大規模化が進んでいる。さらに、県外の養鶏会社の参入もあり、卵の価格競争が激化している。

### 2. 会社の取組と実施事業

このような状況の中で、当社は自社養鶏場での卵の生産から、「スモッチ」やスイーツなどといった卵の加工品の製造、直売所である「いではCOCCO」や通信販売などを通じての自社販売まで卵の6次化に取り組んでいる。

価格競争を避けて、事業継続できる価格を自分で決める体制を構築するため、ブランドカアッパを図り、「半澤鶏卵のファン」をたくさん抱えることを目指している。

### 3. 補助金事業の内容

令和元年度の山形県スーパーマーケットサポ補助金(コンサルティング活用販路開拓等支援事業)に応募し採択され、大きく売り上げを伸ばすことが出来た。

具体的な取り組みとして、生卵については、周年祭や収穫祭に合わせたチラシの配布、卵の美味しさを認知してもらうために卵かけご飯の無料試食会、現金購入よりお得な生卵の回数券の販売などを実施した。

スイーツについては、卵の特徴を活かした商品(プリン、シュークリーム等)を開発した。

さらに、LINEの活用、平飼いであるということアピールする売り場づくりなどといった取り組みも行った。

また、令和2年度の山形県新・生活様式対応支援補助金(中小企業支援型)に応募して採択され、山形市菅沢に卵の自動販売機を設置し、売り上げに大きく貢献している。

現在では合計3台の自動販売機を設置している。

### 4. 今後の課題と対応

これからますます人口は減少していくため、地産外での販路拡大が必要となってくる。

現在、加工品の主力商品である「スモッチ」は香港に輸出しており、輸出量を現在の約3倍まで伸ばしていきたい。

生卵については、平飼い羽数の増産を計画しており、平飼いでは県内最大規模となる予定である。

また、輸出相手の香港の事業者が「スモッチ」の製造施設を視察しに来た際に、他にも商品が欲しいとのことで、米を餌にした黄身が白い生卵を紹介したところ気に入っていただき、香港への輸出が始まった。これは山形県内初である。

現在、トウモロコシなどの餌代がとんでもない水準にまで高騰しているため、県産飼料米をさらに活用していきたい。

更なるブランドカアッパを通じて、いい人材に入社してもらい、よりファンに支持される半澤鶏卵を目指していきたい。